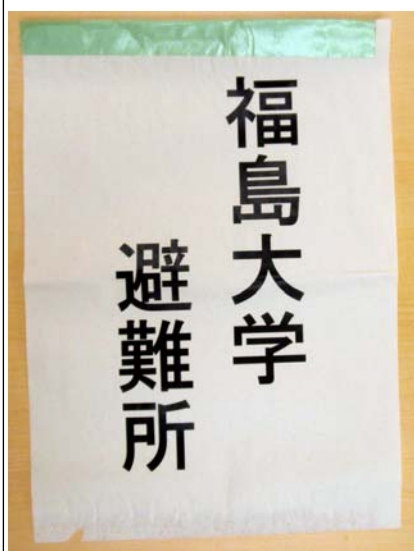


# 福島大学貴重資料集 第3号

Fukushima University, Material Report, no. 3, March 31, 2012



## 目次

- 近世の高札 (2)
- 福島高等商業学校のソロバン (3)
- カモノハシ剥製標本 (4)
- 福島大学放射線計測チーム装備品 (5)
- 福島県相馬市産アザミウマ類プレパラート標本 (6)
- 東日本大震災前後の福島県相馬市松川浦の植物標本 (7)
- 福島大学避難所物品 (8)



## 近世の高札

福島師範学校の郷土資料室に保管されていた近世の高札。(1)天和2年(1682)5月のキリシタン禁制の高札、(2)正徳元年(1711)5月のキリシタン禁制の高札、(3)戊辰(近世後期)11月に「桑折御役所」から発給された無宿者他の長脇指携帯等を禁じる内容の高札、(4)明治元年(1868)に政府から発給されたキリシタン禁制を備中足守藩の瀬上陣屋が下達した高札、の4点。いずれも県内の各地域に伝来したものと思われ、古文書類(歴史準備室保管)とともに郷土資料室が収集、あるいは寄贈され、現在に伝わったと考えられる。

資料点数 約50点  
保管場所 人間発達文化学類棟 歴史準備室  
参考文献

執筆:三宅正浩(人間発達文化学類) 写真:菊地芳朗(行政政策学類)



## 福島高等商業学校のソロバン

経済経営学類の教員控室に使われることなく配置してあった。裏面に消えかかっているが「福島高商」の文字が認められる。福島高等商業学校（福島高商）は1921年に設置され、1944年3月に福島経済専門学校に名称変更されたため、この期間に購入配置されたものと考えられる。また経済学部の備品であったことを示す「福大経済学部」の文字がある金属プレートも側面につけられており、大学の改編とともに新たに再登録されながら、使用されてきたものと考えられる。高商を起源に持つ福島大学の歴史を象徴する一品であると言える。

資料点数 1点

保管場所 経済経営学類衣川研究室(経済経営学類 712室)

参考文献

執筆:衣川修平(経済経営学類) 写真:黒沢高秀(共生システム理工学類)



## カモノハシ剥製標本

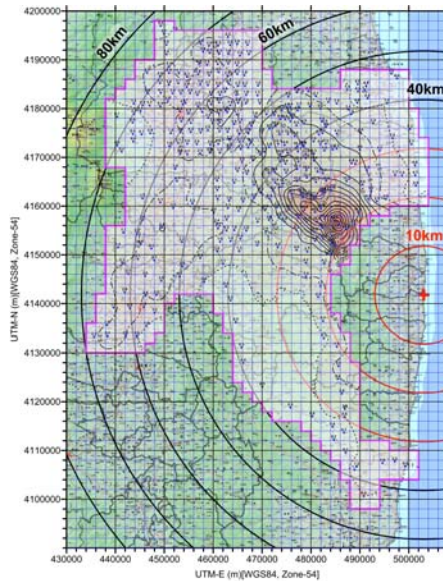
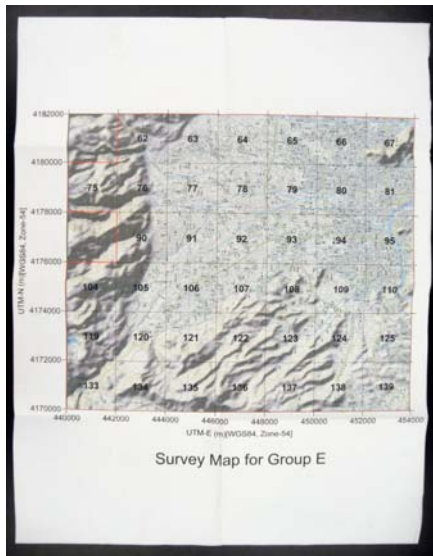
大部分の哺乳類(哺乳綱)が胎生であるのに対して、ハリモグラと同様に卵を産み(卵生)、こどもを乳で育てる哺乳類(単孔目)として知られる珍しいカモノハシの剥製標本(全身)である。タスマニア島の降雪地帯とオーストラリア大陸東部に生息し、オーストラリア政府に厳重に保護されている。標本の台座には「濠州産♂ 京都 三省社 山本器機標本店」と記されている。現在は捕獲することができない大変貴重な標本である。

資料点数 1点

保管場所 人間発達文化学類 教育開発実習室準備室(人間発達文化学類棟616室)

参考文献

執筆・写真:木村吉幸(人間発達文化学類)



110325-31空間放射線量測定結果(3月30日の値に補正)

## 福島大学放射線計測チーム装備品

放射線計測チームは放射線の測定結果を公表し、住民の判断に役立ててもらうことを目的として、福島第一原子力発電所事故直後に共生システム理工学類の教員有志が立ち上げた。サーベイメータを県等の協力によって借用し、3月25日にタクシーを使って福島市内 2 km メッシュ調査、さらに阿武隈山地、中通りを3月31日までに測定した。左上は福島市内調査の際に各グループごとに配布されたメッシュ地図である。後の地図化処理のためにUTM座標が用いられている。右上は地域の人に不安がられないようタクシーに掲示したプレートである。調査中に呼び止められ、説明をすることがしばしばであった。余震が続いていたため、左下のように地学実験で用いていたヘルメットを転用して携帯した。こうしてできた初の実測図である右下の図を4月9日にネットで公開すると共に、印刷した図を持って、いち早く高線量の自治体などに説明にまわり、避難準備につなげた。

**資料点数** 数十点

**保管場所** 共生システム理工学類基礎物理学実験室, 物理学実験準備室など  
(理工学類総合研究棟7階)

**参考文献** 石川剛(2011)使命感が明らかにした、放射線レベルの実態. GIS Next (36): 12-15.

山口克彦(2011)We believe in Fukushima. 日本物理学会誌 66: 634-637.

執筆・写真:難波謙二・黒沢高秀(共生システム理工学類)



## 福島県相馬市産アザミウマ類プレパラート標本

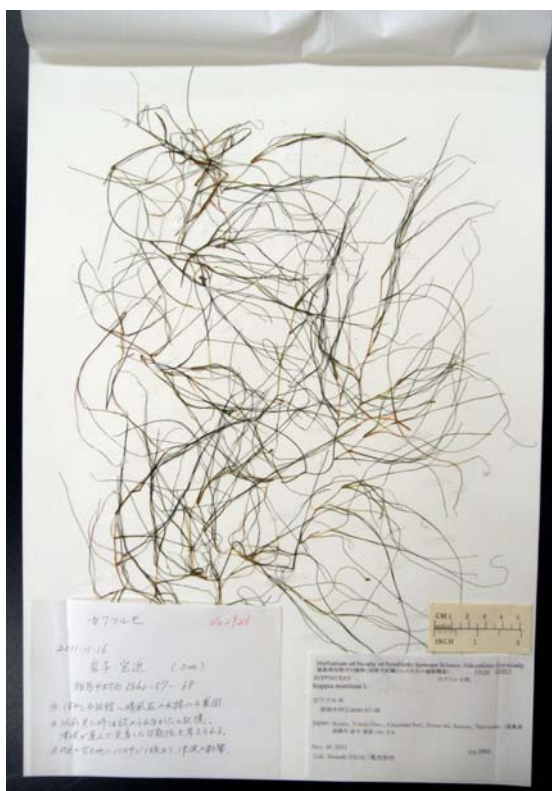
福島県相馬市産のアザミウマ類のプレパラート標本。東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた松川浦の大洲公園など相馬市沿岸部で2002年に採集された18点を含む。また、津波の被害を免れた相馬市沿岸部の森林土壌や津波でリター層を含む土壌を喪失した場所に生育を開始したイネ科草本類のリターから、震災後の2011年8-12月にかけて得られたアザミウマ類のプレパラート標本も含まれている。

資料点数 約120点

保管場所 共生システム理工学類塘忠顕研究室(共生システム理工学類棟 605室)

参考文献 塘 忠顕(2012)福島県相馬市の土壌動物に対する東日本大震災の影響～震災後に実施したカニムシ類とアザミウマ類の調査から～, 福島大学プロジェクト研究[自然と人間]研究報告, No. 9: 1-12.

執筆・写真:塘 忠顕(共生システム理工学類)



## 東日本大震災前後の福島県相馬市松川浦の植物標本

東日本大震災の際に、福島県相馬市では8.9 mの津波に襲われ、県立自然公園の松川浦でもクロマツ植林がほぼ壊滅し、砂州が決壊するなど、地形や植生に大きな変化が生じた。共生システム理工学類生物標本室には、2003～2004年の福島県との生物多様性調査や、2007年以降の相馬市との市史編さんのための調査など、松川浦で震災前に採集された1,357点のさく葉標本が保管されている。また、津波直後の2011年の生物多様性保全研究室や協力者らによる採集の約250点のさく葉標本も保管されており、震災前後の植物相の変化を実証する証拠標本となっている。写真の標本は、知られていた県内唯一の個体群が津波で土壌ごと消失したハマハナヤスリの2004年の生物多様性調査時の標本(左)と、元は淡水だった水路に津波の影響で2011年に現れたと思われる、希少な汽水生植物カワツルモ(右)。

資料点数 約1,600点

保管場所 福島大学共生システム理工学類生物標本室(理工学類研究実験棟7階)

参考文献 福島県生活環境部自然保護グループ(編)(2005)重要湿地松川浦総合調査報告書. 福島県生活環境部自然保護グループ, 福島.

執筆: 黒沢高秀(共生システム理工学類)



2011年3月11日の東日本大震災とその後が生じた福島第一原子力発電所の事故で、相双地域の被災地や原発周辺の住民の多くが避難を強いられた。福島市内の学校や公共施設が次々と避難所となったが、福島大学も自ら被災者受け入れの意向を県に伝え、3月16日より避難所を開所した<sup>1)</sup>。水道やガスが止まり、まだ東北本線・東北新幹線の運転再開や東北自動車道の開通がなされず、物資、水、ガソリンなどが手に入りにくい中での避難所の開設であった。体育館などを避難所として使い、多いときで約150名が避難生活を送った。運営は地域連携課が担当したが、行政政策学類教員が運営実務に加

わったほか、70名ほどの学生によるボランティアの参加、共生システム理工学類教員によるブログの開設など、全学にわたる多くの教職員や学生の協力があった。また、人間発達文化学類教員や学生による手芸教室、造形教室や、「避難所幼稚園」と称した幼児支援活動、保健管理センター医師による健康面でのケア、学生サークルによるオーケストラ演奏など、大学ならではの被災者支援もあった。学生ボランティアと避難者が調理をする炊飯方式による食事の提供、配給せず物資を陳列して必要な人に渡すようなマーケット方式による物資の分配など、ユニークで工夫された運営もなされた。その後、仮設住宅の整備に伴い避難所は縮小し、4月30日には全員の退所が完了した。5月の連休明けには入学式があり、大学の授業が始まった。あれから11ヶ月経ち、当時の面影は、既に探すのが難しくなっている。

左上は避難所の張り紙。体育館の入り口に貼られていたもの。貼付の際に使った緑色の養生テープが残っている。立派な看板は作られず、間に合わせであった。中上は南相馬市に残った人が編集し、各地の避難所に配信した「南相馬ブログ新聞」第21号(平成23年4月18日発行)。避難所に張り出された。南相馬市内の震災被害の様子や季節の風景を知らせる記事が多かった。福島大学避難所は南相馬市方面からの被災者も多かった。右上は福島県中央児童相談所の広報チラシ。掲示した際に見栄えが良くなるように色鉛筆で彩色されている。左下は人間発達文化学類教員により4月5日に開催された造形教室の際に作られた鯉のぼりの一番小さいもの。右下(福島大学避難所日誌 <http://fukudai311.blog.fc2.com/>より)のように避難所の壁を飾っていた。いずれも何のことはない掲示物であるが、何十年か後には、福島大学に避難所があった証として、あるいは当時の避難生活の様子を知る資料として、貴重なものになるかもしれない。

- 1) 鈴木典夫.(2011)福島大学災害避難所の47日間 学生と避難した人々が一緒に調理. 産学官連携ジャーナル2011年7月号. [[http://sangakukan.jp/journal/journal\\_contents/2011/07/articles/1107-02-2/1107-02-2\\_article.html](http://sangakukan.jp/journal/journal_contents/2011/07/articles/1107-02-2/1107-02-2_article.html)]

### 福島大学貴重資料集 第3号

Fukushima University, Material Report, no. 3

発行日:2012(平成24)年3月31日

編集・発行:福島大学貴重資料調査検討会

黒沢高秀(世話人), 阿部浩一, 浅岡善治, 岡田努, 小沼康治, 笠井博則, 菊地芳朗, 澁澤尚, 徳竹剛, 難波謙二, 三宅正浩

住所:福島県福島市金谷川1

福島大学共生システム理工学類内

郵便番号:960-1296

電話:024-548-8201

E-mail:kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

保存すべき貴重資料をご存知の方は、お近くの検討会メンバーにご連絡下さい。